

ベトナム旅行記（ホーチミン編）

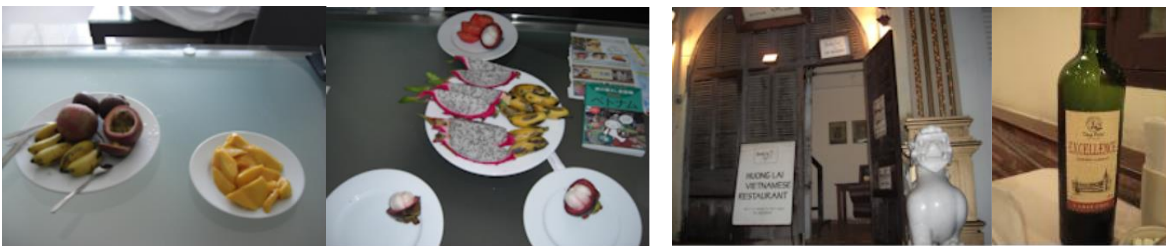
苧坂達文

高校の同窓生数名でホーチミンを中心に各地へ旅行するようになったのは、某ゼネコンを定年退職したW氏が2010年から単身ベトナムに赴任。ベトナム縦断高速道プロジェクトの一部となるホーチミン郊外、ドンナイ川に架ける1.7Kmのロンタン橋工事の監理者に就任したのがきっかけとなった。

同窓会の幹事だった同氏から、これを機会にホーチミンでも同窓会を開催する提案があったがさすがに当時の同窓生は皆現役だったので難しい。そこで今度は来た人には「国賓級の待遇でおもてなしします。」という呼びかけとなった。「よほど寂しいんだな。それなら行ってやろうか。」ということでこの年4名がバラバラに訪越した。（実は言葉に不安のある私は2人だったのだが。）

そして4名が行ったことがわかると翌年から日程を合わせて一緒に行くようになりだれからともなくホーチミンクラブと称するようになる。その後定年延長が満期になったT氏が加わり常連メンバーは5名となった。

というわけで、2010年はW氏のマンションに宿泊。各室にシャワーとトイレがついていて、入り口にはホテルのようなカウンターにコンシェルジュが常駐しており、外にはタクシーと英語がわかる管理者が常時待機していた。ベトナムの日本人はホテル並みの高級マンションに住んでいた。



朝食に用意された多彩なフルーツ。右はフレンチレストラン。



初日の夜はメイドさん手作りの郷土料理。こんな感じ。

さらに翌日は高級フレンチレストランでフランスワインとキャビア、フォアグラ等日本では注文しがたいメニューでまさに国賓的歓迎だった。

初めてのホーチミンなので日中は統一会堂、人民委員会庁舎、戦争証跡博物館、市民劇場、美術博物館、中央郵便局、ベンタン市場等一通り市内見物を行った、これらは中心地に集中していてすべて徒歩圏内。ただこの時期はまだ信号がなかったもので、大通りを渡る時は集団でやって来るバイクとの間合いを計りながら命がけでわたらなければならない。最初は足がすくんだが何度か行くうちに要領がわかり、運転者とアイコンタクトを取りながらうまく渡れるようになった。

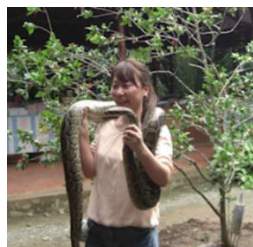


統一会堂は大統領の執務室やベッドルーム等館内を見物でき、写真も撮れる。上の写真はその敷地内にあるこじゃれたカフェ。フォーやバインミー等があり市民が朝食をとっていたがやや割高でホテル並みの料金だった。これらランチ向けのメニューなら、ニューラン(Nhu Lan)がおすすめ



はじめは偶然昼時に前をとおり人だかりがしていたのでバインミーをテイクアウトして持ち帰ったが外はバリバリで中はソフトな独特のフランスパンを使ったホットドッグで他にはないものだった。後にフォーもあってイートインできることを知り、以後メンバーは毎回一度は必ずここで昼食をとることにしている。

現地オプショナルツアーは長距離バスツアーがいろいろあったが、私はメコンデルタ日帰りツアーに行ってみた。当時 40 米ドル程度で川巡りの船賃や昼食、ショー見物、菓子類やフルーツの試食もついていた。高速道路を使って片道2時間くらいだが、途中寺院等観光地によりながら行くので苦にはならなかった。昼食では珍しいエレファントフィッシュ(下の写真)が出てきた。



蛇使いのショーではツアー客の首に蛇を巻いて撮影するサービスも。挑戦したのは女性ばかり。もちろん現場見学も行った。今回はW氏の出勤に便乗して同行させてもらった。現場事務所にはマンションから車で1時間程度。路上で朝食をとる田舎町の風景を見ながら、並走するバイクを払いのけるようにひたすら猛スピードで駆け抜けるのであった。現場では歓待され現地の職員とともに賄い飯をごちそうになった。下はエビを調理する賄いの女性。



工事はまだ始まったばかりでまだまだのどかな状況。翌年から現場の進捗状況を見学するのも旅程に組み込まれることになった。

メンバーは東京同期会の会長で会社社長のE氏。元商社マンで英語が堪能な私とは別のO氏。コピーライターのF女史。グルメ店の調査や飛行機やホテルの手配をしてくれている。それに後から参加したゼネコン出身の電気に強いT氏である。

それぞれの長所を出し合って臨機応変、気ままな旅を楽しんでいる。因みに私の貢献は小冊子「旅の指さし会話帳ベトナム編」を購入して毎回持参していること。街に出ると英語が通じないので、これのおかげで私の独壇場である。外国語に自信のない方は必携の書である。

工事そのものの進捗は下記のステップで2014年初に完成した。

(2012.4)



(2013.4)



橋脚から型枠のユニットを使ってコンクリートを打ちながら前後に橋本体を伸ばしていく工法。建設工事業者が地盤改良から舗装まですべてを行うシステムだ。



モーターボートで川中から見学。この後、逃げ場のない栈橋上で激しいスクールにみまわれた。
(2014.2)



既に完成し開通していた。W氏の帰国が重なっていたので例年より早めの訪越となった。



こちらはホーチミン市中心部で今年開始された地下鉄工事現場。

旅は毎回ホーチミンを最終地とし

2012年はその昔、港町として国際的に繁栄した日本にもゆかりのあるホイアンを経由。

2013年はアンコールワット見物の為、カンボジアのシェムリアップを経由

2014年はW氏がかって関わったハロン湾バイチャイ橋の見学とハロン湾クルーズの為ハanoi
から入って王朝遺跡の世界遺産フエを経由した。

2017年に今度はW氏が地下鉄(ベンタイン市場前駅)工事の監理でまたもやホーチミンへ
復帰。ホーチミンクラブも今回はミャンマー経由となり再開した。カンボジアとミャンマー
はどちらもビザが必要だが。特にミャンマーは提出書類が多く、インターネットの説明書

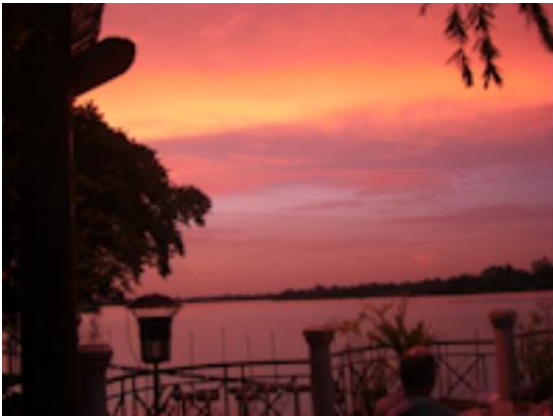
に書いていないパスポートのコピーまで要求され、慌てて大使館周辺でコンビニをさがして駆け回った。特に地方の方(かた)は少し費用がかかるが旅行会社に依頼するのが賢明だ。



なお、ホーチミンはこの間、急速に発展していて。上の写真は同じマンションの窓から見た景色だが左が2010年。右が2017年。1棟しかなかった高層ビルが今は林立している。街中の信号機もかなり増えてきた。バイクは相変わらず目立つが以前と異なり、町が整備されたせい外出時のマスクは必要でなくなった。

蛇足ながら国賓的待遇はその後どうなったかという以下のとおり

2012年はサイゴン川ほとりの夕日の美しい西洋レストラン(欧米人の斯界になっている場所)



自国民は入れないが、我々日本人もグレーゾーンのように入り口の検問でかなり手こずっていた。

2013年は地元の海鮮料理店(W氏の秘書も参加し皆を楽しませてくれた。ただし英語で！)

2014年は参加者急増の為かついに韓国焼肉店となった。しかしハノイ～ハロン湾往復とダナンの寺院、墓陵めぐりのマイクロバスを提供してもらったのでありがたかった。【節約旅行のおわり】

